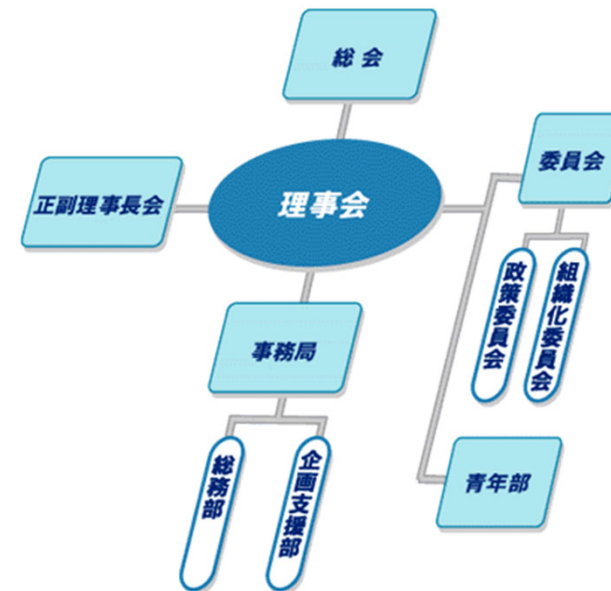


地域コミュニティを支える商店街

全国商店街振興組合連合会

【全国商店街振興組合連合会とは】

- ▶ 全国商店街振興組合連合会（全振連）は、商店街の振興と地域の活性化を目的とした組織です。昭和43年に設立され、全国の商店街振興組合や小売店と連携して、商店街の活性化に必要な調査・研究、研修、指導・相談、情報提供などを行っています。



【商店街振興組合とは法人格を持った商店街】

- ▶ 商店街振興組合は、商店街が形成されている地域で、小売業、飲食業、サービス業などの事業者が団結して、共同で経済事業や地域の環境整備を行う法人組織です。商店街の振興と地域の発展を目指し、各店舗の繁栄を図るために活動しています。商店街のハード整備（アーケードや街路灯の設置などの**街区整備**）やソフト事業（イベントやセールの開催など地域の**伝統文化の継承等**）を通じて、地域社会の福祉向上に努めています。

【商店街が地域社会において担っている役割】

▶ 1. 生活必需品の提供で地域の暮らしを支える

商店街は日常生活に必要な商品やサービスを提供し、地域住民の生活を支えています。特にいわゆる交通弱者といわれる高齢者や車を持たない人々にとって、近くの商店街は生活基盤を支える存在であり、地域の持続可能な発展に不可欠と言えます。

「ボランティアバンクおたすけ隊」、「楽屋」、「まるごと大家族」など、数々の取り組みで全国から注目を集める埼玉県秩父市のみやのかわ商店街振興組合。高齢化社会に対応し、むしろそれを特長として打ち出す斬新な発想がそこにはあった

(出典：全国商店街支援センター EGAO)



【商店街が地域社会において担っている役割】

▶ 2. 地域住民の交流の場（地域コミュニティのプラットフォーム）

今日、自治会の加入率の低下に見られるように地域の人との繋がりが希薄化している中で、商店街は地域住民が集まり、交流する場として機能しています。

商店街が実施するイベントや様々な地域の支援活動、そして日常の買い物を通じて店主や他者とコミュニケーションをすることで、地域の絆が深まります。

こみせ通り商店街

～地域文化を守る商店街が市とともにまちを活性化～

元銭湯を改装した公共施設「松の湯交流館」が中町こみせ通りに誕生。地元の人（土の人）と観光客（風の人）の交流の場が生まれ、官民一体となってさらにディープに商店街が活気づきそうだ。

（出典：全国商店街支援センター EGAO より抜粋）



【商店街が地域社会において担っている役割】

▶ 3. 地域の安心安全を見守る防犯・防災の役割

商店街は地域の見守り役としても機能しています。商店主が地域の様子を見守るだけでなく、防犯カメラなどの設置によって不審者の発見や災害時の迅速な対応に貢献するだけでなく、犯罪を抑制する効果も発揮しております。

明大前商店街振興組合

平成13年10月、犯罪多発ワーストワンの街という荒れた街から、明大前商店街では「安全安心の街づくり」をコンセプトに、商店街の事業として、全国初の毎日活動の防犯パトロール隊「明大前ピースメーカーズ」をスタートさせ、半年後、同じく全国初の民間交番を設立、地元松原小学校も治安が悪く父兄の不安は頂点に達し、対策として、全国初の登下校の安全誘導と、挨拶運動を展開しました。

（出典：明大前商店街振興組合ホームページ）



【商店街が地域社会において担っている役割】

▶ 4. 地域伝統・文化など継承、イベント開催による賑わいの創出

商店街は町内会や自治体と連携し、その中心となって地域の伝統的行事に取り組み、地域の伝統や文化を守っています。

こうした活動で住民の地域への愛着が増し、住民同士の交流を促進するなど、地域に寄り添った活動を展開しています。

狸小路商店街

本陣狸大明神社 通称：狸神社

狸小路100周年を記念して当初狸小路四丁目に建立されました。その後、移転され現在は狸小路五丁目にあります。写真右手の「狸」には八つの徳（八徳）があるといわれており（例えば「大福帳をなげると商売繁盛」「お腹をなげると安産」）日々多くの参拝者で賑わっております。正月二日の「初狸祭」、8月第一木曜日から始まる週の土曜日の「狸八徳例大祭」等はこの本陣狸大明神社前で行なわれます。

（出典：狸小路商店街 HP）



【商店街が地域社会において担っている役割】

▶ 5. 高齢者や子育て世代の支援

商店街は高齢者の社会参画を促し、子育て支援の場としても機能しています。例えば、保育施設の誘致や高齢者向けサービスの提供などが行われています。

小溝筋商店街振興組合（おみぞ筋商店街）が運営する「子育てほっとステーション」。

’15年9月に開設して以来、近隣に住まう多くの子育て世代に利用されている。その人気の高さは、商店街ゆえの安心感と、利用したくなるコンテンツ。そこで形成されるコミュニティが、商店街へ好影響をもたらしている。

（出典：全国商店街支援センター EGAO）



【災害時の地域復興を後押し】

自然災害等が発生した場合に、小規模事業者が事業活動が続けていくことは持続可能な地域の発展に欠かせない重要な問題であると考えます。

まさに共助が必要とされる事態において、共助の核であり、地域コミュニティの担い手である商店街が地域の安心安全において果たすべき役割は大きいことから、事業継続力強化支援計画などに商店街が関わっていくべきだと考えます。



43坪2階建ての「POPOTIN（ポポタン）」。1階には被災地産品からなる商品が並び、2階は地域のイベントなども開催されるコミュニティスペースとなっている。



被災地商品を継続販売する
商店街の取り組み
井尻商店街振興組合
／福岡県福岡市

被災地支援から生まれる
互いに助け合える関係

被災地から少し離れた小さな商店街が、熊本を力強く支援している。福岡県福岡市の井尻商店街は、コミュニティスペース「POPOTIN（ポポタン）」で被災地商品を6月から販売。現地からの商品が状況を伝えるパネルとともに並び、売上は8月まで全額熊本に還元された。「売り場を失った店主たちに、うちの商店街で場所を提供して、少しでも光が見えれば」――理事長の武本春一さんは、打ち上げ花火のような一時的なものではなく、被災者の自立支援にしたいという強い想いで動いている。

この直売所の運営を務めるのはNPO法人日本グローバル

井尻商店街振興組合



博多から電車で30分弱。コンパクトな商店街ながらも地域のさまざまな活動の舞台としても機能する

【能登半島地震でも地域復興を支える】

先般の能登半島地震においては、商店街は会員の殆どが被災して維持が困難な状況にあっても、地域の安心安全と速やかな復興のために街路灯を点灯し続けています。平時から地域の安心安全のために共助の力で設置し運営コスト含め維持されている街路灯が、災害時でもその力を発揮している証であると言えるのではないのでしょうか。



【共助の枠組みにおける核である商店街が果している役割】

商店街は地域から逃れられない経済主体の特徴をっており、しなやかな経済の担い手です。また、地域コミュニティ型に分類される小規模事業者の集合体である商店街は、共助の核であり地域コミュニティの担い手としての役割を担っている。そして共助の枠組みにおける核として商工会や商工会議所の指導員では手の届かない小規模事業者の共助による支援の輪としての役割も担っています。



【地域の持続的な発展のために】

中小・小規模事業者は、地域におけるコミュニティや雇用の維持など、利益や売上など経済効率では測れない重要な役割を担っています。

そして地域から離れられない中小・小規模事業者の集合体である商店街は、単なる買い物の場ではなく、地域コミュニティの維持と発展に欠かせない地域を経営する存在です。地域のニーズに応じたサービスを提供し続けることで、商店街は今後も地域の暮らしを支え、持続可能な地域社会の実現に貢献していきます。

全国商店街振興組合連合会 副理事長 島口 義弘